

会社情報

会社概要 2012年6月30日現在

商号	ホシザキ電機株式会社 (HOSHIZAKI ELECTRIC CO.,LTD.)
所在	本社 〒470-1194 愛知県豊明市栄町南館3-16 (代表電話) 0562-97-2111
設立	昭和22(1947)年2月5日
上場	平成20年12月10日：東京証券取引所市場第一部 並びに名古屋証券取引所市場第一部
資本金	78億16百万円
事業内容	全自動製氷機、業務用冷凍冷蔵庫、食器洗浄機をはじめとする各種業務用厨房機器の研究開発及び製造販売
決算	12月31日
従業員数	(連結) 10,312名 (単体) 1,239名
連結子会社	国内17社 海外29社(合計46社)

役員 2012年6月30日現在

代表取締役会長	坂本 精志	取締役	高橋 勉
代表取締役社長	鈴木 幸彦	取締役	丸山 暁
専務取締役	成瀬 信隆	取締役	川井 秀樹
専務取締役	浦田 康博	取締役	小林 靖浩
常務取締役	本郷 正己	常勤監査役	北垣戸 弘充
取締役	小川 恵士郎	監査役	小野田 誓
取締役	渡部 晴夫	監査役	南館 欣也

株主メモ

事業年度 1月1日から12月31日まで
 定時株主総会 毎年3月
 基準日 定時株主総会・期末配当：毎年12月31日
 中間配当：毎年6月30日
 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 三井住友信託銀行株式会社
 郵便物送付先 〒168-0063
 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 (電話照会先) 電話 0120-782-031(フリーダイヤル)
 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。

- 住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
- 未払配当金の支払について
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。



株主・投資家の皆さまへ

ホシザキグループ報告書

第67期 | 第2四半期累計期間
(2012年1月1日～6月30日)

ホシザキ電機

<http://www.hoshizaki.co.jp/>

冷蔵庫・製氷機・食器洗浄機などプロの厨房環境をトータルにサポート



ホシザキ電機株式会社

〒470-1194 愛知県豊明市栄町南館3-16 総務部総務課
TEL:0562-96-1111 FAX:0562-97-7427

社長メッセージ



代表取締役社長
鈴木 幸彦

存在意義

私たちホンザグループは、多様化する「食」に対するニーズの変化に対応し、お客様のみならず社会に貢献できる「進化する企業」であることを目指します。これを満たすため、独自の技術に基づくオリジナル製品を創造し、より快適でより効率的な食環境へ向けての新たな提案と迅速かつ高品質なサービスを提供します。

経営姿勢

- 遵法はもとより社会と社員から信頼される会社づくり
- 透明性のある経営 議論のできる経営の実践
- 事業活動と環境との調和 働きやすい職場環境の実現

「良い製品は良い環境から」

不透明な経営環境の中、増収増益基調を確保。今後も将来の成長に向けた施策を継続いたします。

Q1 2012年12月期上半期の連結業績はいかがでしたか？

当初予想を上回り、増収増益となりました。

当社グループでは、欧州の政府債務危機等に伴う世界経済の減速など経営環境は引き続き不透明な状況で推移するという環境分析のもと、当上半期の連結業績は微増収及び営業減益を予想しておりました。しかし、結果としては、連結売上高が前年同期比6.3%増の898億47百万円、連結営業利益が同21.8%増の90億69百万円と、当初予想を上回る業績を上げることができました。

主な要因として、国内において東日本大震災に伴う復旧・復興需要が継続したこと、前年に抑制されていた飲食店の設備投資が再開したことなどがあげられます。そして、事業活動においては、大幅な省エネを実現した業務用冷蔵庫の拡販、既存顧客との関係強化や新規顧客の開拓などに取組むことにより、主力製品及び戦略製品の販売が好調に推移するなど、外部要因の変化に対応することができました。さらに、国内・海外において原価低減並びに販売費及び一般管理費の削減など、前期に引き続き利益の捻出に努めたことも、大幅増益の一因となりました。

Q2 国内外それぞれどのような点に重点を置いて取り組んでいますか？

国内では、既存市場の深掘りと新規市場の開拓。
海外では、主力製品の拡販に取り組んでいます。

当社グループは現在、世界でNo.1の企業になることを目指し経営を推し進めております。既に製氷機においては世界シェアNo.1のポジションをいただいておりますが、業務用冷蔵庫においても中期的に世界シェアNo.1を目指してまいります。

具体的な戦略として、国内においては、人口減少傾向に伴うマーケッ

トの縮小という環境の中、既存市場の深掘りと新規市場の開拓を進めております。また、海外においては、現地ニーズにマッチした製品開発による主力製品の拡販、M&Aも視野に入れた事業拡大を積極的に行い、売上高の伸長を図ってまいります。

こうした方針と戦略のもと、当期は、国内においては、機器販売といったハード面の強化に加えて、ソフトビジネスの強化に積極的に取り組んでおります。具体的には、2011年に新設した、女性を中心とするコンサル室により、お客様に調理・衛生管理の解決策などを提案する営業を強化しております。また、主力製品である“冷”機器に加え、スチームコンベクションオープン、電磁調理器などの“熱”機器、歯科などで用いる器具除染用洗浄機、宅配用の蓄冷剤凍結庫、フラワーショーケースなどの新規マーケット向けの製品の開発・拡販に注力しております。また、海外においては、製氷機に次いで価格競争力のある業務用冷蔵庫について、市場にフィットした新製品を開発するなど、拡販を進めております。

これらの取組みを着実に積み重ねていくことにより当社グループは、中長期的に『業務用厨房機器業界の売上高世界No.1』の実現を目指してまいります。

Q3 通期の業績見通し、株主の皆様への利益還元についてお聞かせください。

強みを活かして安定成長を続け、安定配当を確保してまいります。

経済環境は国内外ともに未だ不透明な状況にあります。国内では、東北地方を中心とした大規模な震災復興投資の一回の可能性、飲食店の設備投資が上半期に再開された反動から

下半期に減少傾向を示す恐れなどがあり、海外では、欧州債務危機の長期化に伴う世界経済の減速が予想されます。

こうした先行き不透明な事業環境の下、国内においては、これまで構築してきました、製品開発から製造、販売、メンテナンス・サポートまでを一貫した“製販一体”のビジネスモデルによって売上・利益の安定的拡大を目指してまいります。すなわち、製品開発においては、総勢約230名の研究開発要員を擁する体制を有し、キャッチした市場ニーズに素早く対応した新製品開発を可能としております。また、全国を網羅した自前の営業・サービスによるサポート体制を敷くことで全国一律のキメ細やかなサービス展開を可能としております。これらの強みにより、好況時には新築ニーズへの対応を主とし、不況時にはリニューアルや保守の需要に中心軸を移すといった戦略転換を自在に行うことができるため、景気変動の影響を受けにくい構造となっております。一方、海外においては、約120名の研究開発要員による低コスト、高付加価値製品の開発・販売の強化、新規顧客の開拓推進、営業体制の強化などに取り組んでまいります。

こうした強みを活かした経営を続けると同時に、原価低減、業務の効率化、生産性の向上にも継続的に取り組むことで、当期も売上・利益の安定的拡大を目指してまいります。当期の通期連結業績見通しは、2012年7月30日に上方修正予想を発表させていただきました通り、売上高1,745億円（前年同期比3.1%増）、営業利益147億円（同6.5%増）の増収増益を見込んでおります。

株主の皆様には、安定成長を基礎に今後も安定的な利益還元の継続を目指してまいります。

常に社会の一員としての自覚を忘れることなく、お客様のみならず社会に貢献できる、進化する企業グループであることを目指し、一丸となって企業価値の向上に邁進してまいります。

引き続き、株主の皆様のご支援ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

インフォメーション & トピックス

成長戦略 ① 新規市場開拓を狙った品揃えの強化

“冷”機器（これまでの主力領域）に加え、新たに“熱”機器への市場の深掘りを図り、さらには、飲食業以外の新規市場の開拓を押し進めております。



① 既存市場の深掘り

当社ではこれまで、製氷機・冷凍冷蔵庫などの“冷”機器を主力製品として製品開発・販売を行ってまいりました。近年ではスチームコンベクションオープン・電磁調理器などの“熱”機器の販売を開始し、厨房機器の品揃え拡大を図っております。また、これまでは電気を動力としたものが主でしたが、お客様の厨房環境やニーズにお応えするためガスを動力とした機器についても開発を進めております。これらの製品開発は「価格」「省エネ」「安全・安心」「操作性」をキーワードに行われております。今後もお客様のニーズに応えることができるよう製品開発及び製造、販売を継続してまいります。



◀◀ 新製品「ラピッドチラー」(2012年5月発売開始)

デリカショップ・仕出し等の加工販売業を中心に、調理行程での粗熱取り(*)を行うため、ラピッドチラーの販売を開始いたしました。作業効率アップはもちろん、食の安全性向上にもお役立ていただけます。

* 粗熱取り・・・加熱調理されたものの熱を取ることで、扱いやすくし、次工程で冷たい物と合わせやすくなります。

② 新規市場の開拓

従来からの主力市場である「飲食業向け」に加え、新しいお客様の開拓にも積極的に取り組んでおります。具体的には、従来の主力製品、スチームコンベクションオープン・電磁調理器などの戦略商品の訴求に加えて、上述のような各業種向けの新製品を開発することで、「病院・老人健康施設」「スーパー・コンビニエンスストア（流通販売）」「学校・保育園」「加工販売」といった分野にホシザキ製品をご利用いただけるよう努力しております。今後、様々なお客様にホシザキ製品をご利用いただきたく、製品開発及び製造、販売を継続してまいります。

成長戦略 ② グローバル展開の強化

グローバル展開の積極化として、M&Aを含めた海外拠点の整備・拡充に加え、海外マーケットにフィットした製品づくりにも注力しております。

当社は現在、中長期的な事業拡大戦略の一つとして、グローバル展開の強化を推進しております。

今後の経済成長とそれに伴う市場拡大がますます期待されるアジア市場への展開を強化すべく、製品開発の基本方針・戦略を大きく転換することとしました。すなわち、これまでアジア市場向けの製品は、日本市場向け製品の改良によって対応しておりましたが、今回、“アジア市場で求められている製品は何か？”から検討を行い、製品コンセプトの段階から製品開発に臨みました。こうして生み出された新製品がアジアにフィットしたA-FIT冷凍冷蔵庫です。

今後も各地域のニーズにマッチした製品開発を行い、世界中のお客様に愛される製品開発及び製造、販売を継続してまいります。

アジア市場向け製品の開発方針の転換

従来のアジア向け製品 → 日本市場向け製品の改良で対応

今回以降の方針 → アジア市場のニーズにマッチした製品を製品コンセプトの段階から検討・開発

「A-FIT 冷凍冷蔵庫」の主な特徴

① コストダウンを実現

部品・素材の現地調達により大幅なコストダウンを実現

② 現地ニーズに沿った各種仕様の採用

冷却性能・材質等を現地ニーズに対応したものを採用

③ 新デザインを採用

操作性が高く、出っ張りがなく邪魔にならない扉ハンドル方式

アジア市場のために開発した新製品



A-FIT 冷凍冷蔵庫



アジア市場にフィットした製品を
一から検討・開発し、投入

連結財務ハイライト

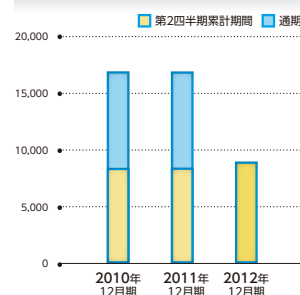
連結財務ハイライト

(単位: 百万円)

	2010年12月期		2011年12月期		2012年12月期
	第2四半期 累計期間	通期	第2四半期 累計期間	通期	第2四半期 累計期間
売上高	84,309	169,379	84,504	169,297	89,847
営業利益	7,370	13,842	7,443	13,808	9,069
経常利益	7,140	13,058	7,594	13,750	8,783
当期純利益	4,970	8,884	4,299	7,220	5,034
純資産	107,129	110,302	112,667	114,445	117,568
総資産	188,019	181,243	191,208	185,282	200,518

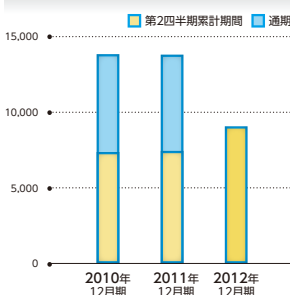
売上高

(単位: 百万円)



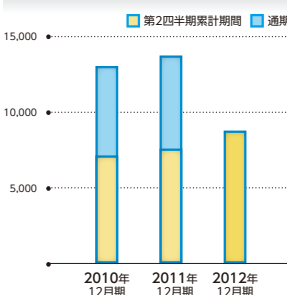
営業利益

(単位: 百万円)



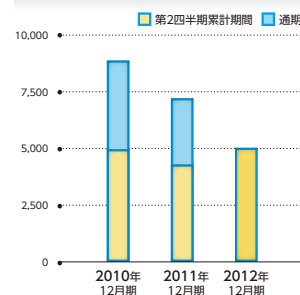
経常利益

(単位: 百万円)



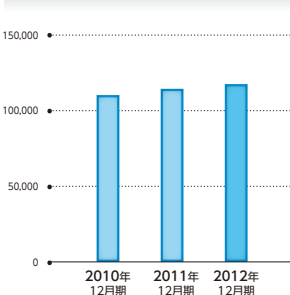
当期純利益

(単位: 百万円)



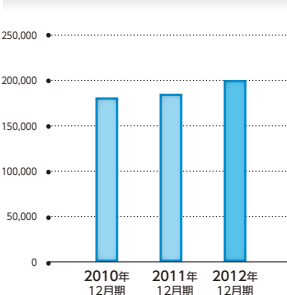
純資産

(単位: 百万円)



総資産

(単位: 百万円)



営業概況

事業環境

当第2四半期累計期間における国内の経済環境は、長期化する円高やデフレの影響など依然として厳しい環境のなか、東日本大震災からの復旧・復興需要等を背景として、緩やかな回復基調が継続しました。海外においては、欧州の政府債務危機の深刻化、世界経済の減速等により、景気は先行き不透明な状況で推移しました。当社グループを取り巻く環境においても、主要販売先である外食産業において、消費者の節約志向や外食業界内の競争激化などにより、厳しい経営環境が続きました。

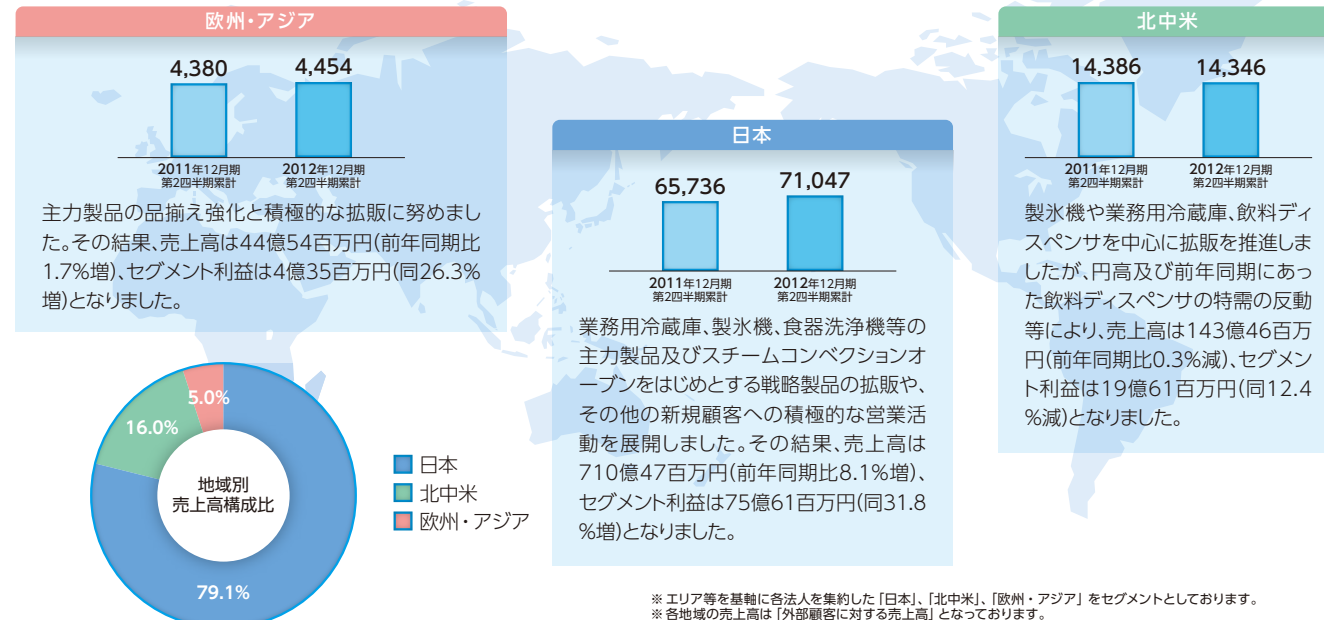
業績・成果

このような環境のなか、当社グループは引き続き、国内では、外食産業への積極的な拡販と外食産業以外の新規顧客の継続的な開拓を行いました。海外では、北中米、欧州・アジアにおいて、主力製品の拡販に努めました。その一方で、原価低減に加えITを活用した業務の効率化や生産性の向上に努め、利益の確保にグループをあげて取り組みました。以上の結果、当第2四半期累計期間の業績は、売上高89億847百万円(前年同期比6.3%増)、営業利益90億69百万円(同21.8%増)、経常利益87億83百万円(同15.7%増)となりました。また、四半期純利益は、50億34百万円(同17.1%増)となりました。

連結セグメント情報

地域別売上高

(単位: 百万円)



日本
2011年12月期 第2四半期累計: 65,736
2012年12月期 第2四半期累計: 71,047

業務用冷蔵庫、製氷機、食器洗浄機等の主力製品及びスチームコンベクションオープンをはじめとする戦略製品の拡販や、その他の新規顧客への積極的な営業活動を展開しました。その結果、売上高は710億47百万円(前年同期比8.1%増)、セグメント利益は75億61百万円(同31.8%増)となりました。

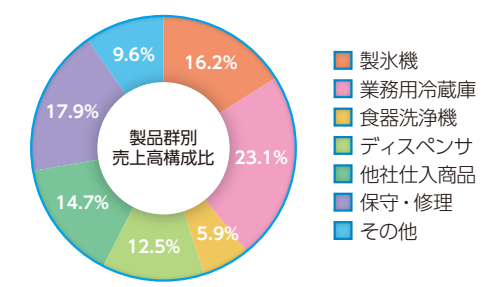
北中米
2011年12月期 第2四半期累計: 14,386
2012年12月期 第2四半期累計: 14,346

製氷機や業務用冷蔵庫、飲料ディスプレイを中心に拡販を推進しましたが、円高及び前年同期にあった飲料ディスプレイの特需の反動等により、売上高は143億46百万円(前年同期比0.3%減)、セグメント利益は19億61百万円(同12.4%減)となりました。

* エリア等を基軸に各法人を集約した「日本」、「北中米」、「欧州・アジア」をセグメントとしております。
* 各地域の売上高は「外部顧客に対する売上高」となっております。

製品群別売上高

(単位: 百万円)



	2011年12月期 第2四半期累計	2012年12月期 第2四半期累計
製氷機	13,841	14,597
業務用冷蔵庫	18,801	20,749
食器洗浄機	5,144	5,334
ディスペンサ	11,117	11,229
他社仕入商品	12,173	13,187
保守・修理	15,550	16,081
その他	7,874	8,667
合計	84,504	89,847

* 2011年12月期より、ディスペンサ及びその他製品の一部製品において、区分を変更しております。そのため、同基準比較するために、前期実績を当期区分に変更しております。

連結財務諸表

1 流動資産

主に、現金及び預金、受取手形及び売掛金、有価証券などが増加したことから、流動資産は前期末比149億79百万円増加し1,371億26百万円となりました。

2 固定資産

無形固定資産の「のれん」が減少したものの、有形固定資産、投資その他の資産が増加したことから、固定資産は前期末比2億55百万円増加し633億91百万円となりました。

3 資産合計

流動資産・固定資産ともに増加したことから、資産合計は前期末比152億35百万円増加し2,005億18百万円となりました。

連結貸借対照表

	当第2四半期末	前期末	増減額
	2012年6月30日現在	2011年12月31日現在	
資産の部			
1 流動資産	137,126	122,147	14,979
現金及び預金	85,022	81,418	3,604
受取手形及び売掛金	22,421	17,069	5,352
有価証券	8,200	6,410	1,789
商品及び製品	6,948	6,139	808
仕掛品	1,971	1,872	98
原材料及び貯蔵品	4,983	4,857	125
その他	7,676	4,462	3,213
貸倒引当金	△96	△83	△13
2 固定資産	63,391	63,135	255
有形固定資産	37,420	36,741	679
無形固定資産	12,618	13,707	△1,089
のれん	6,975	7,598	△623
その他	5,642	6,108	△466
投資その他の資産	13,352	12,687	665
3 資産合計	200,518	185,282	15,235

(単位：百万円)

	当第2四半期末	前期末	増減額
	2012年6月30日現在	2011年12月31日現在	
負債の部			
4 流動負債	64,052	52,123	11,928
支払手形及び買掛金	12,238	9,490	2,747
未払法人税等	5,957	2,624	3,333
賞与引当金	2,707	2,206	500
その他の引当金	821	870	△48
その他	42,328	36,932	5,396
5 固定負債	18,897	18,713	183
退職給付引当金	13,151	12,924	226
その他の引当金	723	740	△17
その他	5,022	5,047	△25
6 負債合計	82,949	70,837	12,112
純資産の部			
7 株主資本	125,192	122,314	2,878
資本金	7,816	7,812	3
資本剰余金	14,338	14,335	3
利益剰余金	103,038	100,167	2,870
自己株式	△0	△0	—
その他の包括利益累計額	△7,736	△7,986	249
その他有価証券評価差額金	△151	△176	25
為替換算調整勘定	△7,585	△7,809	224
少数株主持分	112	117	△4
8 純資産合計	117,568	114,445	3,123
9 負債純資産合計	200,518	185,282	15,235

4 流動負債

支払手形及び買掛金、未払法人税等、賞与引当金が増加したことから、流動負債は前期末比119億28百万円増加し640億52百万円となりました。

5 固定負債

主に、退職給付引当金が増加したことから、固定負債は前期末比1億83百万円増加し188億97百万円となりました。

6 負債合計

流動負債、固定負債ともに増加したことから、負債合計は前期末比121億12百万円増加し829億49百万円となりました。

7 純資産

利益剰余金、為替換算調整勘定が増加したことなどから、純資産は前期末比31億23百万円増加し1,175億68百万円となりました。

連結財務諸表

	当第2四半期累計期間 2012年1月 1日～ 2012年6月30日	前第2四半期累計期間 2011年1月 1日～ 2011年6月30日	増減額
売上高	89,847	84,504	5,343
売上原価	54,806	51,729	3,076
売上総利益	35,041	32,774	2,266
販売費及び一般管理費	25,971	25,330	640
営業利益	9,069	7,443	1,626
営業外収益	343	324	18
受取利息	151	118	33
受取配当金	7	6	0
その他	184	199	△15
営業外費用	629	174	455
支払利息	7	5	1
為替差損	589	71	517
その他	33	96	△62
経常利益	8,783	7,594	1,189
特別利益	1	6	△5
固定資産売却益	1	5	△4
その他	-	1	△1
特別損失	42	147	△105
固定資産廃棄損	39	20	18
災害による損失	-	119	△119
その他	3	7	△4
税金等調整前四半期純利益	8,741	7,453	1,288
法人税、住民税及び事業税	6,592	5,820	772
法人税等調整額	△2,880	△2,662	△217
少数株主損益調整前四半期純利益	5,028	4,296	732
少数株主損失 (△)	△5	△3	△2
四半期純利益	5,034	4,299	734

8

売上高

厳しい経営環境は続いたものの、国内外における積極的な拡販活動に加え、国内では震災復興需要の継続や飲食店の設備投資再開などがあり、売上高は前年同期比6.3%増の898億47百万円となりました。

9

経常利益

増収効果に加え、原価低減とITを活用した業務の効率化や生産性の向上に努めた結果、経常利益は前年同期比15.7%増の87億83百万円となりました。

10

四半期純利益

四半期純利益は前年同期比17.1%増の50億34百万円となりました。

11

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは112億19百万円の収入となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益 (87億41百万円)、減価償却費 (20億92百万円) などによるものです。なお、フリーキャッシュ・フロー (営業活動CF+投資活動CF) は、54億円と高水準の資金状態を確保しております。

12

現金及び現金同等物の四半期末残高

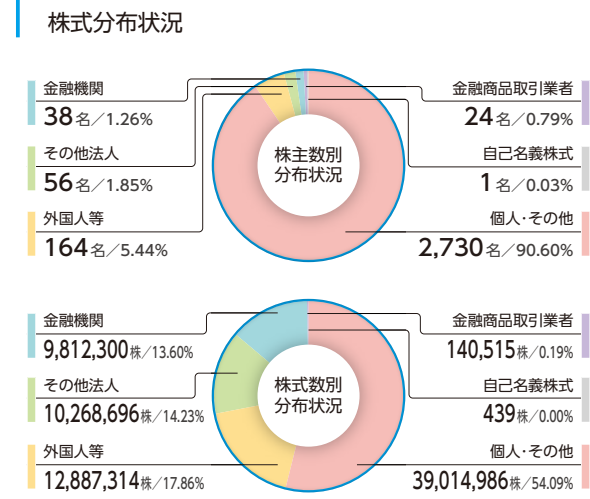
営業活動によるキャッシュ・フローの収入増、投資活動によるキャッシュ・フローの支出減などの結果、現金及び現金同等物の当四半期末残高は前年同期末に比べ106億52百万円増加し376億60百万円となりました。

	当第2四半期累計期間 2012年1月 1日～ 2012年6月30日	前第2四半期累計期間 2011年1月 1日～ 2011年6月30日	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,219	6,863	4,355
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,719	△8,694	2,974
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,175	△2,152	△23
現金及び現金同等物に係る換算差額	△811	284	1,095
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	2,511	△3,698	6,209
現金及び現金同等物の期首残高	35,148	30,707	4,441
現金及び現金同等物の四半期末残高	37,660	27,008	10,652

株式関連情報 (2012年6月30日現在)

発行可能株式総数	250,000,000 株
発行済株式の総数	72,124,250 株
株主数	3,013 名

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
財団法人ホシザキグリーン財団	5,800	8.04
ホシザキグループ社員持株会	4,487	6.22
坂本ドネイション・ファウンデーション株式会社	3,180	4.40
坂本 精志	1,810	2.50
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニー・レギュラー・アカウント	1,781	2.47
ジェービー・モルガン チェース バンク 385174	1,762	2.44
真木 薫	1,757	2.43
真木 豊	1,757	2.43
稲森 美香	1,722	2.38
森井 純子	1,712	2.37
伊東 由美	1,712	2.37



国内外ネットワーク (2012年6月30日現在)

- ホシザキ電機株式会社**
- 本社 / 愛知県 豊明市
 - 島根本社工場 / 島根県 雲南市
- 国内グループ会社**
- ホシザキ北海道株式会社 / 北海道 札幌市
 - ホシザキ東北株式会社 / 宮城県 仙台市
 - ホシザキ北関東株式会社 / 埼玉県 さいたま市
 - ホシザキ関東株式会社 / 東京都 文京区
 - ホシザキ東京株式会社 / 東京都 港区
 - ホシザキ湘南株式会社 / 神奈川県 横浜市
 - ホシザキ北信越株式会社 / 石川県 金沢市
 - ホシザキ東海株式会社 / 愛知県 名古屋市
 - ホシザキ京阪株式会社 / 大阪府 大阪市
 - ホシザキ阪神株式会社 / 大阪府 大阪市
 - ホシザキ中国株式会社 / 広島県 広島市
 - ホシザキ四国株式会社 / 香川県 高松市
 - ホシザキ北九州株式会社 / 福岡県 福岡市
 - ホシザキ南九州株式会社 / 鹿児島県 鹿児島市
 - ホシザキ沖縄株式会社 / 沖縄県 那覇市
 - 株式会社ネスター / 愛知県 大府市
 - サンセイ電機株式会社 / 島根県 雲南市

- 海外グループ会社**
- HOSHIZAKI USA HOLDINGS, INC. / 米国
 - HOSHIZAKI AMERICA, INC. / 米国
 - HOSHIZAKI SOUTH CENTRAL DISTRIBUTION CENTER, INC. / 米国
 - HOSHIZAKI WESTERN DISTRIBUTION CENTER, INC. / 米国
 - HOSHIZAKI NORTHEASTERN DISTRIBUTION CENTER, INC. / 米国
 - HOSHIZAKI NORTHCENTRAL DISTRIBUTION CENTER, INC. / 米国
 - HOSHIZAKI SOUTHEASTERN DISTRIBUTION CENTER, INC. / 米国
 - HOSHIZAKI NEW ENGLAND DISTRIBUTION CENTER, INC. / 米国
 - LANCER CORPORATION / 米国
 - ADVANCED BEVERAGE SOLUTIONS, LLC / 米国
 - LANCER DE MEXICO, SOCIEDAD ANONIMA DE CAPITAL VARIABLE / メキシコ
 - INDUSTRIAS LANCERMEX, SOCIEDAD ANONIMA DE CAPITAL VARIABLE / メキシコ
 - SERVICIOS LANCERMEX S.A. DE C.V. / メキシコ

- 北中米**
- Hoshizaki Europe Holdings B.V. / オランダ
 - HOSHIZAKI EUROPE LIMITED / 英国
 - Hoshizaki Europe B.V. / オランダ
 - GRAM COMMERCIAL A/S / デンマーク
 - GRAM UK LIMITED / 英国
 - Gram Deutschland GmbH / ドイツ
 - Gram Nederland B.V. / オランダ
 - HOSHIZAKI SINGAPORE PTE LTD / シンガポール
 - HOSHIZAKI LANCER PTY LTD / 豪州
 - HOSHIZAKI LANCER LIMITED / ニュージーランド
 - Lancer Europe N.V. / ベルギー
 - 星崎 (中国) 投資有限公司 / 中国
 - 星崎冷熱機械 (上海) 有限公司 / 中国
 - 星崎電機 (蘇州) 有限公司 / 中国
 - 台湾星崎股份有限公司 / 台湾
 - 星崎香港有限公司 / 香港
- 欧州・アジア・その他の地域**